

withコロナの  
美術教育を  
考える

第2回の特集では、  
今まさに考えたい  
「withコロナの美術教育」に  
ついて、『美術資料』の  
著者・横田 学 先生から  
のご提案を紹介します。



よこた まなぶ  
横田 学 先生

プロフィール  
これまで、京都市立芸術大学教員  
(2002～2020年)、京都府立学  
校教諭、京都府教育庁指導部学校  
教育課指導主事、高等学校学習指  
導要領解説作成協力者(文部科学  
省)、評価規程研究開発協力者(国  
立教育施策研究所)、中央教育審議  
会教育課程部会芸術ワーキング  
グループ委員などに携わる。

Q.1 withコロナの美術教育において、  
留意するポイントは何でしょうか？

A 美術科の指導に限ったことではありませんが、  
学校での授業では3密を防ぐことが必要となります。  
では、特に美術の授業で3密になりそうな場面はどのよう  
なときでしょうか。

- ①授業始め 配布物や材料・用具の準備のとき。
- ②授業中 制作の実演や実物資料の提示で1箇  
所に集まる時。
- ③授業終わり 後片付けのとき。

これら以外にも、学校や教室の状況、授業の内容によっ  
ては様々な場面で、3密の状況になることがあります。事  
前に授業の流れや生徒の動きをシミュレーションし、3密  
になりそうな場面を避ける手立てを考えてみてください。



美術教室の机が対面型の場合、代わりに普通教室で授  
業を行う手段も考えられます。しかし、特に表現の授業は、  
用具や教材の移動など、座学と異なる活動内容なので、  
普通教室では出来ない場合もあります。

また、ものづくりの底力を発揮し、段ボールやビニルシ  
ートを使ってパーテーションを自作されている先生方、また、  
コロナ禍の今の状況を捉え、デザインによる問題解決と  
してフェイスシールドの制作など3密を避けること自体を教  
材化されている先生方もおられます。

Q.2 3密を避ける  
具体的なアイデアは？

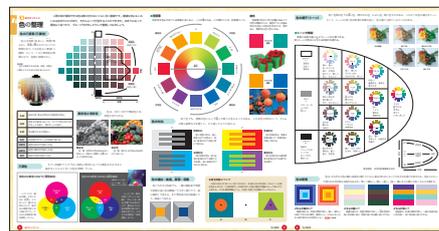
A ■配付物などを減らす  
授業で使う用具などは、可  
能な限り個人所有の物を使うことで、  
配布や回収、消毒などの機会を減  
らすことができます。また、配布資  
料を減らすためにも『美術資料』や  
教科書を積極的に活用しましょう。



繰り返し参照するペー  
ジに目印の付箋やイン  
デックスを貼らせたり、  
黒板や掲示板にペー  
ジのリストを明示したり  
するとスムーズな活用が  
可能です。

『美術資料』で繰り返し参照するページの例

- 美のガイダンス
  - ・色の整理 P.4～6
  - ・配色の工夫 P.7
  - ・色をつくるヒント P.11
  - ・モダンテクニック P.14～15
  - ・構図と遠近法 P.16～17
  - ・発想し、構想を練る P.18～19
- 構成美の要素 P.63
- 日本の伝統色・和の文様 P.134～135・136～137
- 顔は語る P.154～155



P.4～6



P.63

■壁面や廊下の活用

制作後、生徒作品を相互に鑑賞し、話し合う活動は大  
切です。しかし、グループなどでの話し合い活動が難し  
い状況なので、教室壁面や  
廊下などできるだけ広い空間  
を活用して作品を掲示し、3  
密にならない状況でのワー  
クシートを使った鑑賞なども  
取り組ませたいものです。



### Q.3 授業数減に、どのように対応していけばよいのでしょうか?

**A** 多くの学校で夏休みの短縮を実施しましたが、一学期の休校措置の影響により、指導時数の確保が難しくなっています。題材の数を減らさざるを得ない場合もあるでしょうが、中学校三年間で、さらにそれぞれの学年で身に付けさせたい「学び」は減らしたくはありません。

そのためには、題材にメリハリを付け、一部の題材の大きさを小さくしたり、「短時間題材」に変更したりすることも有効です。その際、単に時間を短縮するだけでなく、指導計画に沿った「学び」が保障されているかどうか、チェックすることは言うまでもありません。

題材	ページ	想定される「学び」
○石の動物を描く	P.28	石の形や色のイメージから主題を生成し表現する。
○溶かしてぼかす色鉛筆	P.29	自己の夢や感情から主題を生成し、P.6「色の調子」やP.7「配色の工夫」などを参考に、色のグラデーションで表現する。
○バルサ材を使って「にぼし」をつくる	P.56	身近なものの美しさや面白さに目を向け、形や色の特徴を捉え、部分と全体の関係を確かめて立体に表現する。
○石けんを使って抽象彫刻をつくる	P.57	P.42「モンドリアンの抽象絵画へのプロセス」を参考に、身の回りのものを、単純化・抽象化して立体に表現する。
○消しゴムではんこをつくらう	P.89	自己の個性や特徴から発想し、P.66～67「マークのデザイン」やP.136～137「和の文様」などを参考に、自分のマークをつくる。



▲参考資料配信中 「にぼし」制作動画



### Q.4 今後も、家庭学習が中心の授業展開も考えられますが…

**A** 学校で行っている題材のなかで、そのまま家庭に持ち帰って出来るものは限られます。家庭学習として新たな題材を考える場合、最低でも次の二つのことを考えておく必要があります。

- ①材料・用具など、学習に必要な物が家庭で準備できること。
- ②生徒自身が、その学習を通して得られる「学び（ねらい）」を意識しながら取り組める内容であること。

特に②については、家庭学習を評価する際に、提出の有無やその量などだけでなく、「学び」を評価するためにも、事前にしっかり考えておく必要があります。

題材	ページ	「ねらい」
コラージュ	P.14	自己の夢や感情から主題を生成し、コラージュ/フロッタージュを活用して表現する。
フロッタージュ	P.14	※単に技法体験に終わらず、生成した主題を表現する手段として活用させるため、主題生成の部分を生徒の実態に応じて設定する。
調べたことを発表する	P.21	美術に関して調べたことを、文字、絵や図などを組み合わせ、人に分かりやすく伝えるように構成する。 ※例示は「美術展について」であるが、地域の特質、既習の学習等に応じて、作家探求、技法体験、地域の工芸などの課題設定、社会科（歴史）と連携した美術史研究なども考えられる。
構成美の要素	P.63	P.63「身の回りにある構成の美しさ」を参考に、自分の身の回りに実際にある構成美を見つける。
文字のデザイン	P.64～65	新聞、広告、雑誌などに使われている様々な文字（フォント）を集め、それらが使われている場所と表現の効果などについて考えてまとめる。



▶参考資料配信中 「フロッタージュ」制作動画



### Q.5 先生方へ、メッセージを!

**A** このコロナ禍の状況で、保護者も在宅勤務などで家庭におられることが多くなり、生徒達の家庭学習を間近に見られることが多くなっています。美術の学習が、作品を制作するだけでなく、思考や判断を伴った「学び」であることを、保護者に実感していただく良いチャンスでもあると思います。

『美術資料』は、美術による「学び」を常に大切に編集されています。ご意見・ご感想、先生方の『美術資料』を活用した授業実践やユニークなアイデアなどを、『美術資料通信』を通じてお聞かせください。



### 秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。 **随時更新中です!**

●『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

●『美術資料』をより活用するための図版や動画を公開中です。

秀学社Webサイト  
https://www.shugakusha.co.jp/



『美術資料』デジタルコンテンツ  
https://www.bijutsushiryō.com/



今号へのご意見や著者へのメッセージ、ご質問など、『お問い合わせフォーム』よりお気軽にお寄せください。

お問い合わせフォーム  
https://www.shugakusha.co.jp/form\_otoiawase/

先生の声を聞かせください。

